

予報期間 10月19日から10月25日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第24号については最新の台風予報を参照。
- 21日から23日にかけては、大陸の高気圧が日本海に張り出し、前線が日本の南から沖縄付近にのびて停滞する。
- 24日は、高気圧が移動性となって北日本付近へ移動し、日本の南の前線が南下する。
- 25日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が中国東北区を東進する。

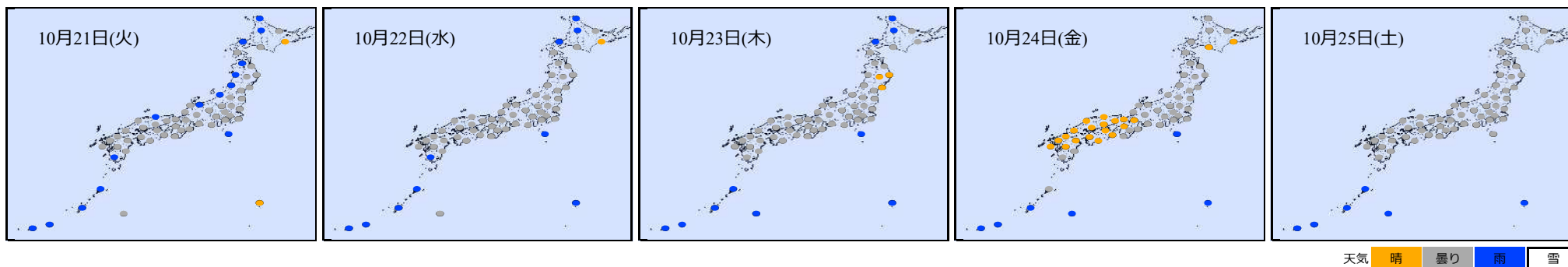
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 21日から23日頃にかけて、日本の南から東シナ海にかけて前線が停滞するため、伊豆諸島と沖縄・奄美を中心に大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

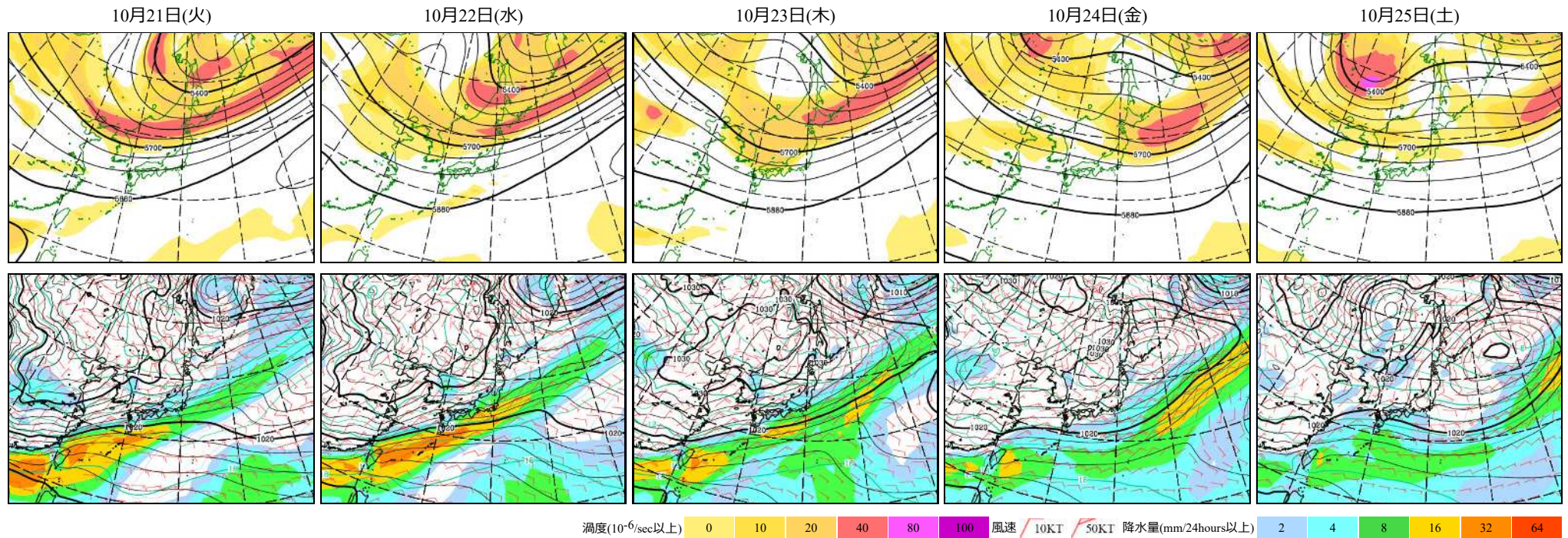
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

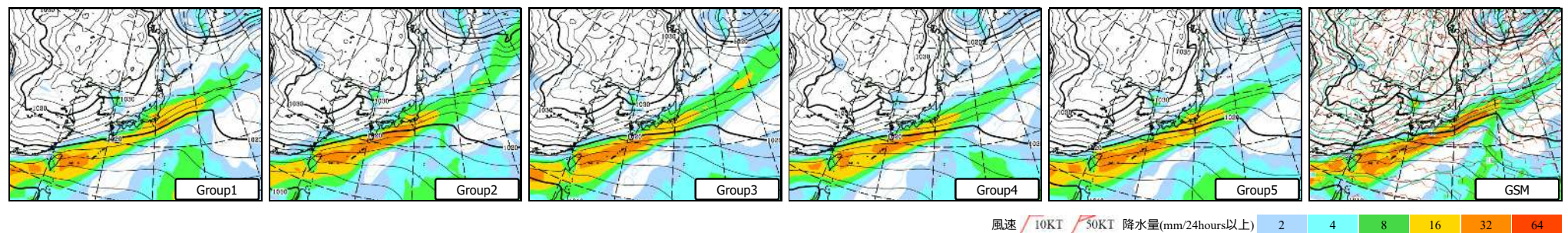


- 北日本は、雲が広がりやすく、雨または雪の降る所がある。太平洋側は晴れる所もある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。24日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月22日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、22日頃は日本の東海上で高度が上がり、日本の南の前線が北上して降水域が本州南岸にかかるようになり、東・西日本太平洋側の降水確率が大きくなった。また、25日頃に中国東北区へ進むトラフが深くなり、対応する低気圧が明瞭となった。
- 各モデルとも、23日頃までは前線が日本の南から沖縄付近へのびて停滞し、その後は高気圧が北日本付近を通過するといった大きな流れはおおむね揃っている。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、22日の前線の位置は各モデルを参考にENSより南寄りに考える。